

論文審査の結果の要旨

氏名：柳 澤 大 輔

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：川崎病急性期における NT-proBNP の上昇要因に関する研究

審査委員：（主 査） 教授 平 山 篤 志

（副 査） 教授 塩 野 元 美 教授 松 本 直 也

教授 逸 見 明 博

川崎病は 5 歳未満の乳幼児に好発する全身性血管炎であり、原因はまだ明らかにされておらず合併する冠動脈瘤は予後を左右するが、免疫グロブリン療法の導入により頻度は著しく減少したことから種々のサイトカインが病態形成に関与していることが示唆されている。一方、NT-ProBNP(N 末端プロ脳性利尿ホルモン)は心機能の低下に伴い上昇することが知られている蛋白であるが、川崎病患者で上昇することが知られている。しかし、上昇の機序については不明である。本論文では、44 名の川崎病罹患患者において急性期と亜急性期に NT-ProBNP および TNF- α 、その可溶性受容体(Soluble TNF receptor:sTNFR)を測定するとともに、心エコー法で評価した心機能の諸指標を対比することにより、川崎病患者における NT-ProBNP 上昇の機序について検討を加えた。結果:急性期の NT-ProBNP は亜急性期と比較して心機能低下はなくとも、有意に上昇していた。サイトカインである TNF- α 、sTNFR1、sTNFR2 も急性期に有意に上昇しており、それぞれの値は、NT-ProBNP と有意な相関関係を認めた。これらのことから、急性期の NT-ProBNP は、心機能低下による上昇ではなく、炎症の指標となることが示唆され、同時に血管炎の重症度を表す指標となることを示した点、さらに今後 NT-ProBNP をマーカーとした治療方針の確立に有用である可能性を示した。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 28 年 2 月 17 日